

# ヴェリタス学習会通信 94

予定表カレンダー →



## 令和7年1月の予定

- ・月曜日 1月6・13・20・27日 大安公民館1階研修室 18:30～21:00
- ・水曜日 1月8・15・22・29日 ヴェリタス事務局 18:30～21:00
- ・木曜日 1月9・16・23・30日 員弁老人福祉センター1階会議室3 18:00～20:30
- ・金曜日 1月17・24・31日 北勢市民会館1階リハーサル室 18:30～21:00

**10日 ヴェリタス事務局 18:30～21:00**

藤原文化センターは休止中です。水曜日はヴェリタス事務局で開会しています。

**10日(金)**は、「二十歳のつどい」の準備のため、北勢市民会館が全館貸し切りで利用できません。**ヴェリタス事務局**で行います。

12月30日(月)～1月5日(日)は年末・年始のため、学習会はありません。

ヴェリタス事務局の所在地は、511-0261 いなべ市大安町丹生川上 650-1 です。  
丹生川上集会所(旧丹生川上児童館・教育集会所)内です。

大雪やその他の警報が出ている場合は休会にします。いつもその会場に来ている方にはLINEなどでお知らせいたしますが、不安な場合はお問い合わせください。



## 連絡先

ヴェリタス学習会担当まつみやの携帯電話番号：090-7696-0189 (+メッセージも可能)

メールアドレス：npoveritas@gmail.com

LINE ID：m9s0bay (4文字目は数字のゼロです)

Facebookの「松宮 卓」に友達申請していただければMessengerが使えます。

メールやLINE登録をしていただいた方には、それを利用して休会連絡を行います。手数料削減協力のため、できる限りご登録ください。LINEを利用して、宿題等の画像を送ってくる子もいます。自分でできるところまでやって送ってもらうと、効果的な返信ができます。



## Zoomなどの会議ツールを利用しませんか



利用が広がっているZoomクラウドミーティングやSkype, Facetime, Google Meetなどを利用して学習しませんか。興味のある方は、ご相談ください。

## 莊子



前号で紹介した老子の後輩で、莊子という思想家がいました。紀元前4世紀から3世紀の中国に生きた人物です。莊子自身は老子の考えを引き継いだとも言っていないのですが、思想の内容から後世の人が、老子と莊子のような考え方を老莊思想と呼んでいます。

中国・朝鮮・日本で、多くの時代、儒教（儒学）が主または表の思想や学問として通用してきました。一方で、老莊思想も副または裏の考え方として、面々と続いてきました。両者でバランスを取りながら、東アジアの民は、生活を支えてきたのです。

端的に言えば、「頑張れ」という儒教と「のんびり行こうぜ」と声をかける老莊思想をうまく使い分けながら暮らしてきました。

## 莊子の教えを説いた書物『莊子』は「そうじ」と読む

莊子の思想が著されている『莊子』という書物は、日本では「そうじ」と読むことになっています。この書物の中には、寓話ぐうわといって、創作した物語の中に人間への教訓を描きこむ話が多くみられます。イソップの話やプラトンの問答集などが一緒になったような書物の形式です。『老子』と比べると読みやすく、話の筋も入ってくるのですが、奥に隠されている内容を理解するのが難しい書物です。莊子のキーワードは、無為自然むゐしぜん（何もせず自然にまかせる）と万物斉同ばんぶつさいどう（すべての物はみんなおなじ）です。読む人によってとらえ方が違うのですが、皆さんに伝えたい都合の良いまとめは、次のようなものです。



全ての事物は長所と短所があって、優劣などは決められない。すべてを平等にみるようにし、何かと何か、誰かと誰かを比べるな。ごさかしい策に頭を使わず、自分が自分がと出しゃばらずに、自然の成り行きに任せて生きていきなさい。

## 混沌も莊子から



『莊子』の中には、「鯤という巨大魚が鵬という巨大鳥になる話」や「胡蝶の夢」という有名な話が含まれています。意味が分からなくても良いので、この2つは一度読んでおくことを勧めます。

また、四字熟語「朝三暮四」のもとになった猿の話や、ことわざ「井の中の蛙大海を知らず」のもとになった話も『莊子』にあります。「包丁」の語源となった話もあります。

応帝王篇の第七の最後に書かれている話の概要だけ記しておきます。

南の海の神儵しゅうと北の海の神忽こつが、中央の海の神混沌こんとんを訪ねたとき、混沌はたいそうなもてなしをした。儵と忽は感激して、混沌にお礼をしようと相談した。混沌には目も耳も鼻も（口も）ない。人間のように7つの穴があれば、見たり聞いたり食べたりできるので便利だろうと、1日に1つずつ穴をあけてやった。そうしたら7日目に混沌は死んでしまった。（混沌はギリシャ語の「カオス」の翻訳語ともなっています）

『莊子』のほかの部分を読んでいる者は、この話が何を伝えようとしているかは、理解度に応じて想像できます。しかし、莊子の名前さえ初めて知ったという皆さんは、この話をどう受け取ったのでしょうか？ よければ、教えてください。予備知識のない真っ白な心で読んだ感想を知りたいものです。あっ、少しですがこの号で紹介していましたね。でも大丈夫です。私の説明では莊子の世界の表面の表面にしか触れることができていないので。